

WEB連載Entertainment・Essay

木村奈保子の音のまにまに

Writer By NAOHOKO KIMURA

芸術、文化は何を語り継ぐ？

木村奈保子の音のまにまに | 第21号

全国的に緊急事態宣言が解除されたものの、東京で最後に残された自粛要請のジャンルが音楽活動に重要なライブハウスとは、傷しい限り。

そもそも、コロナ禍でクラスターが発生してしまった場所としてクローズアップされてしまったからだろう。それも、観客の中に、たまたま感染者がいたからで、ミュージシャン側がうつかに何かをしたわけでもなければ、お店の環境の問題でもなかった。

ライブハウスは、この間、無観客による演奏の配信を試みたが、ある日/パッとコロナ恐怖が終了するわけではないため、今後、どういうやり方で演奏活動が安心感をもって行なわれていくのか、舞台を提供する側だけでなく、演奏者も観客と共に、考えていく必要があるだろう。

映画館では、間隔を空けての座席指定方式は決定しているの、ライブや舞台の場合はさらに、演奏者と観客の間に透明の仕切り板を置くのか、オンライン配信も同時に続けていくのかなど、新しいライブスタイルとして、さまざまなチャレンジが行なわれていくだろう。

それにしても社会はもっと、文化基地としてのライブハウス、そこに出演する音楽家、アーティストの活動に対して、サポートを考えるべきだ。

先日、フリーランスの音楽家が、給付金を申請するにあたり、まずはハローワークで求職活動をせよ、と書かれた話を聞いたが、フリーランスとフリーターとの区別もつかない役所の制のセンスはどうしたものか。

緊急時だからこそ、理解されない現実、落ち込む人も少なくない。

だいたい、中小企業も融資の相談に行く、と、「ビジネスで利益を上げるには……」という難題について、なぜか役所の職員から驚々とアドバイスされることもあり、理不尽な気持ちでくよくよするしかないとか。(嘘嘘に言うな！)

もし音楽家が融資を頼むと、「どうやって、あなたの音楽が受け入れられるのか、考えてごらんさない」などと上から目線で、提案でもされたら、もう得たりなくなるだろう。どうか、専門外のことでは黙って給付、融資をしてください、と願うしかない。

これまでも震災や感染症で、被害者は助けを求めて役所に行くとき、多くの人々が罵をもらつた思いで足を運ぶのに、被害に対する理解のなさ、冷たい対応に二度の苦しみを味わってきた。

平時ではなく、緊急時だというのに、「どうかしましたか？」という淡々とした浅い感情の対応は、どこから来ているのだろうか？

私のような「ハツとする気持ち、態度」を求める体質は、古いのだろうか？

今回のコロナ禍では、トップの政府からして、とんちんかんの連続で国民をとことん幻滅させ、あまりの浮世離れに、悪意さえ感じさせた。何を言われても、ドキリともしない心のタフさだけは、恐れる。何より、リーダーに選ばれた地位を持ったなら、映画の主人公のように尊敬されたり、褒めて喜ばれるヒーロー像に憧れるものだろうか？

被害者の側に立つ精神的な訓練はしていないのだろうか？

落ちこぼれない上級国民は、悪役に染った悪役にしかたれないのだろうか？

加えて、定年延長と職権濫用で話題になった検事トップは、エリートの上にくる人当りも良く、性格もいという評判の中で「正義感はない」という評価に言葉を失った。事件を裁くのは、“正義感”が基本だろう。

そういうものは、持ち合わせないのがエリートの常識なのか？

一方、森友文書改ざんで、正義感あるがゆえに苦しんだ財務職員は、命を絶った。いったい人間は、学校教育の中で何を学ぶのか？ 9月入学とか、フォーマット以前に考え直すことがありそう。

さて、話を戻そう。

昨今、音楽を楽しむ方法として、一般の音楽を映像におさめる音楽ドキュメントは、映画として質が高く、貴重なジャンルになっている。

海外の音楽ドキュメントを見ると、どんな流行歌手でも、ミュージシャンでも、民族の歴史を理解し、過去のミュージシャンを十分にリスペクトしていることがよくわかる。

音楽ドキュメント『タゴール・ソングス』は、英国植民地時代のインドで、ノーベル文学賞を受賞した詩人、ラビンドラナート・タゴールが作った詩=歌が、現代のベンガル地方でどのように歌い継がれているのを追ったドキュメンタリーだ。

ちなみに、ベンガルは、西ベンガル州とバングラディッシュが占める南アジア北東部を指す。今日では、宗教的対立で、インドとバングラディッシュに分割されている。

そうした政治的罅隙の中で、日本人の佐々木美佳監督が、詩人、タゴールの残した世界を伝えているとカメラを揺らす。

主人公の若いヒロインが、親の反対を押し切って、外の世界を見ようと旅立つところからドラマは展開する。ヒロイン役は、アマチュアながら女優レベルの美しさで目を引くが、若者らしい、理味さとやさしい視点で、タゴールの語る自然、愛、戦争反対などの意味を見つめていく。あえてテーマは「自由」ではないだろうか。

映画では、タゴールの歌を独得の節で歌う語り部たちが登場するが、聞きなれた民族的な響きは、やはりインド音楽だ。

私が好きなジャンルの一つ、インド映画は、歌とダンスで描く華やかな大作中心だが、常に底にあるテーマは、カースト(ヒンド)に基づいた身分差別を断絶するもの。ハッピーエンディングは、不条理をすべて覆す正義のヒーロー(ヒロイン)による活躍だ。

本作は、こうしたインド音楽のポップなサウンドに至るまでの、もとなる民族の歌がしみじみと伝えられていき、娘の世代にもつながっていく現代を見せる。

私は、タゴールのことをよく知らないものの、マハトマ・ガンディーとかかわりが深かった語を覚えていて、インド独立運動を果たしたガンディーは、しばしば詩人タゴールと議論を交わした。非暴力、非暴力を提唱したガンディー以上に、タゴールはより人道主義で、時にガンディーを批判するほどであったという逸話は、興味深い。

「いつの時代にも偉人が、戦争の喧騒を超える声で人道主義を訴えたが、日本では芸術家や作家からは、反戦主義の声があまり聞こえない」というタゴールのスピーチが印象的だ。

政治は、政治家だけが考え、執行するものではない。

音楽家は、音さえ出してはいけいものではないだろう。

芸術、文化が、時代の中で何を語り継いでいくのか？ 人々の心をつく芸術は、常に社会と密接な関係があり、政治とも無縁であるはずがない。



『タゴール・ソングス』
[2019年/日本/ベンガル語、英語/105分]
監督：佐々木美佳
All Songs by ラビンドラナート・タゴール
製作・配給：ノンデライコ
公式サイト: tagore-songs.com
@nondelairo

緊急事態宣言の解除に伴い、『タゴール・ソングス』の劇場公開日が決定！

◆ボレレ!東中野にて5月30日(土)より劇場公開
(「仮設の映画館」<http://www.temporary-cinema.jp/> も継続中)
ボレレ!東中野の営業再開についてのガイドライン <https://www.mmj.or.jp/pols2/>



木村奈保子
作家、映画評論家、映像制作者、映画音楽コンサートプロデューサー
NAHOK!バックデザイナー、ヒーローインターナショナル株式会社代表取締役
www.kimuranahoko.com

NAHOK Information



木村奈保子さんがプロデュースする“NAHOK”は、欧州製特殊ファブリックによる「防水」「温度調整」「衝撃吸収」機能の楽器ケースで、世界第一線の演奏家から愛好家まで広く愛用されています。

Made in Japan / Fabric from Germany
問合せ & 詳細は [NAHOK公式サイトへ](#)

PRODUCTS

リュック対応 3WAY楽器専用ケース63「Ran 63」(箱12本用)

楽器ケース、3WAY高障障版を特注で作りました。



NAHOKでは、サイズ対応のため、ケースの受注を再開致しました。
これまでに作っていないケースもライしますので、ぜひお問合せください。

>>BACK NUMBER

第14回:「レッドドラゴン」VS「ジョーカー」

第15回:「ロバート・デ・ニーロの集大成「アイリッシュマン」」

第16回:「アートと社会問題……2020年の備忘録に」

第17回:「楽観箱」と正義と……

第18回:「身近に迫る現実社会の裏——“感染列島”の行方やいかに？」

第19回:「ウイルスよりも怖いのは……」

第20回:「生と死、ぎりぎりの狭間で見つけ出す答えとは？」

木村奈保子の音のまにまに | 第21号

Facebook Messenger Twitter LINE Youtube

＜前の記事＞
生と死、ぎりぎりの狭間で見つけ出す答えとは？

関連記事

MeTooの土壌、日本では？ | 木村奈保子の音のまにまに | 第2号

女性の告発に、なぜ目をつぶるのか | 木村奈保子の音のまにまに | 第9号

知るべきすべては音楽の中に——楽器を通して自分を表現する | 木村奈保子の音のまにまに | 第7号

ヒロイックな女たち | 木村奈保子の音のまにまに | 第5号

エリック・クラプトン〜サウンドとからむ生きざまの物語〜 | 木村奈保子の音のまにまに | 第3号

看板ではなく感性で動くことから文化が高まる | 木村奈保子の音のまにまに | 第8号

思いあふれて……掘り下げて深める音楽愛 | 木村奈保子の音のまにまに | 第10号

平昌オリンピックと音楽 | 木村奈保子の音のまにまに | 第1号

アーティストの音楽に触れよう BackNumber

Cover Story

ALSO ONLINE FLUTE GOODS

Flute Concert Guide

フルートのコンサート情報をお届けします。

PDF Download
アルソ出版
発行楽譜
ダウンロード販売 スタート!

アルソ出版
発行楽譜
ダウンロード販売 スタート!

THE FLUTE お知らせ



THE FLUTE vol.175
THE FLUTE / バックナンバー
FLUTE CLUB入会・更新はこちら
フルート楽譜一覧

ENTRY 投稿・応募
>> THE FLUTE アンケート一覧へ

KAWAI Music School

Brand guide

メトロノームと上手に付き合うと楽譜がうまくなる

KORG KDM-3

クラシック音楽の新たな魅力を体験してみませんか?

クラシック音楽の新たな魅力を体験してみませんか?

オリビアを聴き...

SOUNDCLOUD

オリビアを聴きながら | 音楽

怒りてやうきでない! 村上春樹

きいすーとー | 松田聖子

若者たち | 森山直太朗

未来予想図 | DreamsComeTrue

夢をあきらめないで | 岡村孝子

恋はみずいろ | L'amour est bleu

ロビンソン | スピッツ

色の雫に恋してる | Can't Take ...

PIECE OF MY WISH | 今井美樹

Hello, Again〜昔からある場所〜

Can You Celebrate? | 安室奈美恵

貴方について | ZARD

恋恋ノムコ | SMAP

ALSOonline フルート楽譜資源

Cookie policy

フルート記事

フルートデュオ ア・ラ・カルト

先生と生徒 友だちどうし 2人でつくる!

フルートデュオ ア・ラ・カルト

楽譜の特殊奏法を解説!

フルートデュオ ア・ラ・カルト

フルートデュオ ア・ラ・カルト

The Flute ザ・フルート

3時曜

ASAHI.COM | 作成: 朝日新聞 | THE ASAHI 大学で「対面授業」再開、感染...

小学高学年で授業が再開される中、大...

15 コメントする 4

The Flute ザ・フルート

日曜日

HOT VIEW 今話題の人気記事

音楽

芸術、文化は何を語り継ぐ？

芸術家、文化は何を語り継ぐ？

第12回 インタビュー編「観望一輪とレコード」

WEB限定!フルート楽譜 リンクスのフルートしくじり学

File13 | 確証が失敗? 個人編

MUSIC

音楽、音画……名コンビのためのコッ

作品の世界が見えてくるような演奏を求めて上野由樹

GEAR

お気に入りのアルトに出会う アルトフルート 院庭

ARTIST

第6回 インタビュー編「上野由樹と絵画」

ARTIST

石井麻生代のJAZZ探訪記 | 第1回

ARTIST

石井麻生代のJAZZ探訪記 | 第1回

ARTIST

石井麻生代のJAZZ探訪記 | 第1回

ARTIST

石井麻生代のJAZZ探訪記 | 第1回

ARTIST

石井麻生代のJAZZ探訪記 | 第1回

ARTIST

石井麻生代のJAZZ探訪記 | 第1回

ARTIST

石井麻生代のJAZZ探訪記 | 第1回

ARTIST

石井麻生代のJAZZ探訪記 | 第1回

ARTIST

石井麻生代のJAZZ探訪記 | 第1回

ARTIST

石井麻生代のJAZZ探訪記 | 第1回

ARTIST

石井麻生代のJAZZ探訪記 | 第1回

ARTIST

石井麻生代のJAZZ探訪記 | 第1回

ARTIST

石井麻生代のJAZZ探訪記 | 第1回

ARTIST

石井麻生代のJAZZ探訪記 | 第1回

ARTIST

石井麻生代のJAZZ探訪記 | 第1回

ARTIST

石井麻生代のJAZZ探訪記 | 第1回

ARTIST

石井麻生代のJAZZ探訪記 | 第1回

ARTIST

石井麻生代のJAZZ探訪記 | 第1回

ARTIST

石井麻生代のJAZZ探訪記 | 第1回

ARTIST